

(彙報)

## 佐野大和先生最終講義抄録——図書館通論II——

佐野大和教授は國學院大學図書館司書長として昭和二十四年より勤務された後、昭和四十二年四月より本学文学部教授として図書館学を担当され、本年度を以て定年退職される処となった。平成四年一月十三日（月曜日）の四時限に第三〇四番教室で最後の講義をなされた。此処に記念として最終講義の抄録を左に掲載する次第である。

図書館通論の講義としては、特に図書館実務に関する講義を中心として進めてきた。図書館の日常業務の内、図書の整理のルーティンワークを説明し、整理終了後における図書をサーキュレーション業務に廻す段階まで講義をしてきたのである。図書を書架に排架する項と図書の保存・保管の業務が講義としては残っていることになる。

図書館における閲覧業務こそが図書館の中心的な仕事である。これについては、ランガナタンが図書館活動の規範的原理として示した「図書館学の五法則」について講義では既に説明したが、もう一度そのことについて触れてみよう。

- (1) 図書は利用するものである。
- (2) いずれの読者にもすべて、その人の図書を、
- (3) いずれの図書にもすべて、その読者を、
- (4) 図書館利用者の時間を節約せよ。

(5) 図書館は成長する有機体である。

これは図書館サービスの基本的な理念を提示したもので、図書館専門職員が合わせ持つ五原則でもある。一九七二年の「ユネスコ公共図書館宣言」はランガナタンの五原則を更に敷衍したものである。即ち、公共図書館こそが教育、文化、情報の活力であり、世界の諸国民の相互理解を深める機関であると表明したのである。

図書館は図書の貸出が主で、利用者は好きな本を、好きな時に、好きな格好で読むのが本当の読書というもので、図書を利用者に電話サービスで提供することが極端な話であるが、図書館のサービスというものである。

図書の排架について注意を要するのは、図書館の書棚に本を並べるのは排架であって、配架ではない。配は配するという意味で、排は区別をするという意味である。図書を整理する本当の目的は図書を内容によって区別をし、個別化をして利用のために排架することにある。そして、図書館は一つの特色をもった本を集めて自分の図書館のカラーを持つことにある。

次に図書の排架法であるが、図書は必ずしも図書分類順に並べなくとも、利用中心に考えて閲覧頻度の高い本を利用し易い処に並べるのが良い。最近、IFLAではコア・プログラムとしてPAC原則を示したが、これは、図書の保存・保管の原則である。特に最近では酸性紙の本の保存が世界的な規模でその解決を迫られているのである。

最後に、図書館のことについては是非触れて置きたいことがある。それは、アメリカの大統領であったテオドル・ルーズベルトが、就任後最初の議会の年頭教書で発言した中で、“After the church and the school, the free public library is the most effective influence for good in America.”と言っている。アメリカの社会において、教会と学校の次に最も効果的な影響力を持つのが公共図書館であると言うことをこの施政方針演説の中で云っているのである。このような発言を日本の議会においても総理大臣が施政方針演説で特に言って貰いたいものである。

(図書館学資料室)

抄録者 鈴木 信子